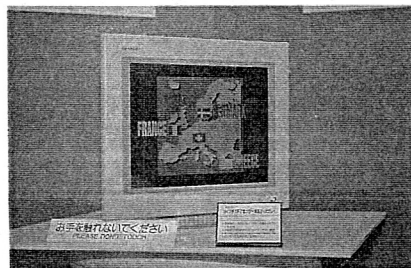


Macintosh Portableのスケルトンモデル、Macの環境を持ち運べるとあって、人気が高かった。



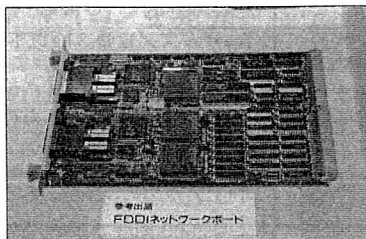
シャープが参考出品した14インチTFTカラー液晶パネル。画面はCRTディスプレイに匹敵する美しさ。同社では、10インチの同パネルを'90年春より量産する予定だ。



沖電気、三洋電機、シャープ、三菱電機が共同で開発した教育用コンピュータ（参考出品）。ベースはAXマシンで、MS-DOSとTRONの両OSが動作する。CPUはクロック周波数16MHzの386SX、メインメモリは3Mbytesを標準装備（写真は沖電気のもの）。



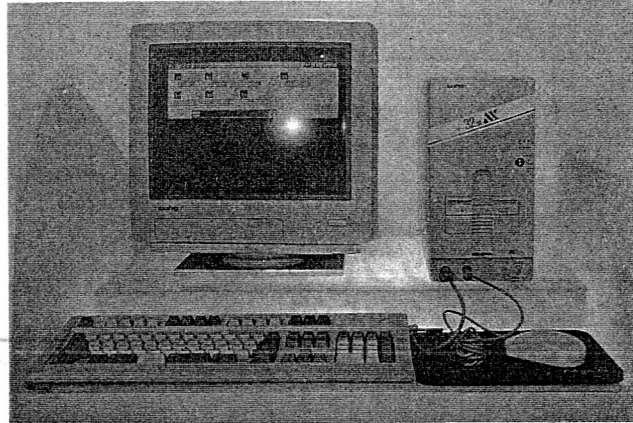
京セラが参考出品した80486（クロック周波数25MHz）搭載のAXマシン「486AX」。メインメモリは2 Mbytesを標準装備し、最大16Mbytesまで拡張可能。32bitバスのEISAを装備する。JEGAの他に、オプションで解像度1024×768ドット、256色同時表示が可能なSIDENを装備できる。



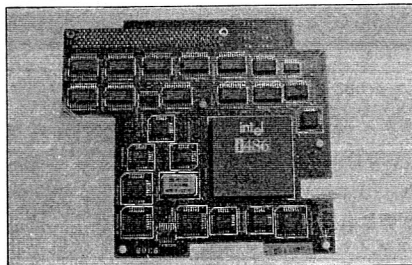
ソニーが参考出品したNEWS用FDDIネットワークボード。FDDIは、光ファイバーを用いた高速ネットワークの規格で、100Mbit/秒の高速LANを構築できる。



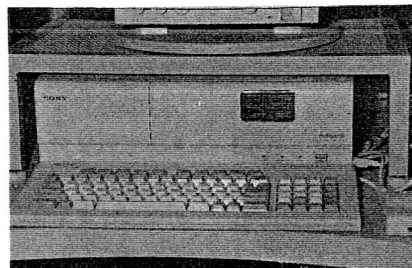
NTTデータのパーソナルコンピュータ「TAO」。タッチパネル式の14インチカラーディスプレイを装備している。多機能電話、ファクス、キャプテン端末としても使用可能。



三洋電機が参考出品した80386（クロック周波数16MHz）搭載AXマシン「MBC-18SJH」。メインメモリ1Mbytesを標準装備。1.44Mbytesの3.5インチFDDと40MbytesHDDを内蔵している。MS-Windows上で動作するユーザーインターフェイス「Wavy Desktop」を標準装備し、ファイルのコピー/削除やアプリケーションの起動などを実行できる。'90年1月発売で、価格は50万円弱の予定。



日本IBMの「80486-25MHzアップグレードキット」。PS/55モデル5550-Vと比較して、1.8~3倍も処理能力を向上できる。12月より出荷開始の予定。価格は70万円。



RISCチップR3000を搭載したソニーのワークステーション「NWS-3800」。メインメモリは16Mbytesを標準装備し、最大80Mbytesまで拡張可能。12月より出荷開始で、価格は395万円から。



日本鋼管の科学技術計算用コンピュータ「PIAX」。CPUに386SX、演算アクセラレータにi860を搭載。PC/AT、VMEおよび独自の3種類のバスを装備している。



立石電機はワークステーションLUNAシリーズに、RISCチップ88000を4個装備したモデルを参考出品した。同モデルは最大100MIPSを実現する。OSには、カーネギーメロン大学で開発されたMachを搭載の予定。



浜松ホトニクスの分散並列型オブジェクト指向ワークステーション「OOPS」。CPUにはi860を搭載し、その他にT800を最大8個まで搭載可能。最大655MFLOPSを実現する。OSにはSmalltalk OSを搭載している。